

| 授業科目名 | 保育内容表現 I | 担当教員名 | 郡 逸次 |
|---------------|--|--|---|
| 必修/選択 | 必修(幼稚園教諭2種免許/保育士資格) | 開講学年・学期 | 2年 通年(年間開講数 2講座) |
| 科目区分 | 教職・保育に関する科目 | 単位数 | 2単位(60時間) |
| 施行規則に定める科目区分等 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) 保育の内容・方法の理解に関する科目(別表1/2) | 授業方法/担当形態 | 演習 / 単独 |
| | | 特記事項 | ※実務経験のある教員等による授業 保育園園長としての実務経験に加え、声楽家として多くのコンサート等の出演経験を活かし、幼児教育の現場での音楽指導を行っている。 ※「保育内容演習」の指導内容を含む |
| 授業の到達目標 | <p>音楽的に表現豊かな保育者となるために、領域理論(教育保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針)の講義、及び実技として主に打楽器の奏法、合奏の実践。様々な音楽遊びを通して幼児の感受性を豊かにするために、保育者自身のそれを育てる。幼児に様々な音楽体験を経験させるために保育者自身の表現力を豊かなものにするため、実技として正しい歌い方、打楽器等の正しい奏法などの基礎的技術の習得、及び音楽遊び、歌唱、合奏などの実践を通して指導力を身に付ける。</p> <p>1-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容:幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 ①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を並びに全体構造を理解している。 ②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2)保育内容の指導方法と保育の構想:幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 ①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>2-保育内容演習</p> <p>(1)養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 (2)子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 (3)上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 (4)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実践について理解する。</p> | | |
| 授業の概要 | 前期の前半は、授業の前半に領域理論(教育保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針)を8回講義形式により行う。後半は、リズムの楽典的理解と楽器による実践。前期の後半は、さらなる打楽器の正しい奏法、正しい歌唱法、様々な音楽遊びの実践、及び指導法を学ぶ。 | | |
| テキスト | 『音楽表現』石井玲子編著 創造性を育む『音楽あそび・表現遊び』須崎朝子・林加奈 著 | | |
| 参考書・参考資料等 | 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社) | | |
| 成績評価の方法 | ○授業中の参加意欲30% ○ノート、レポート、作品提出状況・定期試験(実技):50% ○打楽器演奏の創意工夫:20% | | |
| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 | |
| 第1回 | 前半:講義 幼稚園教育要領における領域「表現」の捉え方 後半:手遊び リズムと乳幼児の音あそび 基礎リズムの実践 楽典 8つのリズム譜の書き方とリズム演奏 リズム遊び | (1)-①,(1)-②,(1)-③ | |
| 第2回 | 前半:講義 幼稚園教育要領 表現のねらい及び内容説明と構造 遊びの内容に含まれる領域を理解し、その関連性を把握する。 後半:手遊び タンバリンの正しい演奏法、タンバリンを使った音楽あそびの実践 楽典:楽器のアンサンブル楽譜の作成と演奏。簡易楽器の種類と構造。正しい演奏方法の理解と習得。楽典コードネーム | (1)-①,(1)-②,(1)-③ | |
| 第3回 | 前半:講義 幼稚園教育要領 豊かな感性と表現「保育者に必要な事は?」2歳から5歳児が経験し身に付けていく内容を考慮し、音楽遊びを通して保育者の表現に必要な内容と指導法。幼児の表現の過程を理解する。 後半:手遊び カスタネットの正しい演奏法、カスタネットを使ったアンサンブル 手遊びコード伴奏 | (1)-①,(1)-②,(1)-③ | |
| 第4回 | 前半:講義 3歳児の表現 子どもの声、言葉、発達段階を把握し、教材等を選ぶ方法を身に付ける。幼児期の音域・声域の理解と幼児にとつての歌の段階的指導法と指導の考察/幼児の歌による内容の認識及び発達段階での課題の学びの過程の理解 後半:トライアングルの正しい演奏法、わらべうた遊び、音楽遊びの実践 | (1)-①,(1)-②,(1)-③ (2)①,(2)②, 2-(2) | |
| 第5回 | 前半:講義 4歳児の表現 身体、声、楽器を使った子どもの表現活動を通して幼児が成長過程で身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。子どもの声、言葉、発達段階を把握し教材等を選ぶ方法を身に付ける。幼児期の音域と声域の理解と幼児にとつての歌の段階的指導法の考察。教材等の選び方。 後半:シンバルの正しい演奏法、わらべうた遊び、音楽遊びの実践 創作リズム遊び 月齢に応じた身体全体を動かすもの、部分を動かすものに分類した音楽遊びの体験。楽典:リズム楽譜作成 | (1)-①,(1)-②,(1)-③(2) -①,(2)-②,(2)-⑤ | |
| 第6回 | 前半:講義 5歳児の表現 2歳から5歳児が経験し身に付けていく内容を考慮し、音楽遊びを通して保育者の表現に必要な内容と指導方法。遊びの内容に含まれる領域を理解し、その関連性を把握する。また、これらのことを保育構想として取り入れる方法を身に付ける。事例を参考にしながら5歳児の姿を理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の考察。リズム遊びを分析し幼稚園教育における評価の考え方を確認。幼児期の音域・声域の理解と幼児にとつての歌の段階的指導法と指導の考察/幼児の歌による内容の認識及び発達段階での課題の学びの過程の理解 楽典:楽曲分析 調性など。 後半:ウッドブロックの正しい演奏法 幼児の身体表現活動 オステイナート リズム遊びを分析し幼稚園教育における評価の考え方を確認。手遊びなど月齢に応じた身体全体を動かすあそび、部分を動かすあそびなどに分類した音楽遊びの体験と指導の方法、評価の在り方の説明。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③(2) -②,(2)-③ | |
| 第7回 | 前半:講義 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領の3歳児未満の表現 乳幼児が経験し、身に付けていく内容と指導上の留意点の理解。 後半:スズの正しい演奏法 音と動きの表現方法 オステイナート伴奏 わらべ歌あそび・手遊びなど 現場で子どもたちが遊ぶ姿を視聴し、具体的な対応を研究する。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。※情報機器あるいは視聴覚教材の使用 | (1)-②,(2)-③ | |
| 第8回 | 前半:講義 0歳児、1歳児の発達と表現 乳幼児の発達と生活を踏まえた音楽的表現と0~2歳のワウワク表現遊びの可能性。0歳児から2歳児の楽器を使っての表現活動。リズム楽器と旋律楽器の効果的使い方を考える。※情報機器あるいは視聴覚教材の使用 後半:歩く、走る、スキップ、ジャンプなど子どもの音楽的表現活動 手遊び・音楽あそびなど | (2)-②,(2)-③ | |
| 第9回 | 3歳未満のリトミックの実践 作成したリトミックの指導案の実践と表現方法の研究 創造的音楽遊び。手遊び・指導の必要性。子ども達に分かりやすい指揮法 幼児の認識・思想・動き等を視野に入れ子どもの発達段階の特性を踏まえ、集中するための指導の方法を考察する。指揮の必要性を考え、指揮による、音楽表現の可能性を実践し、色々な表現の可能性を模索する。指揮の実践 CD等で色々な音楽を聴きながら指揮の練習をする。これらのことを保育全体に取り込み保育構成の向上を目指す。※情報機器あるいは視聴覚教材の使用 | | |

| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 |
|------|---|-------------------|
| 第10回 | 幼児のリズムの実践 ※情報機器あるいは視聴覚教材の使用 創作リズム遊び。ポディーパーカッションで年齢を考慮した、リズム音楽遊びの指導案を作成し、発表する。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造の確認。リズム遊びを分析し幼稚園教育における評価の考え方を確認。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の考察。DVDを使い子どものリズム遊びの映像の分析と展開を考える。指導案の構成を理解し、リズム遊びを使った保育を想定した指導案を作成。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。音楽表現の特性に応じた保育実践方法を知り、保育構想の向上に取り組む。 | (1)-①,(1)-③ |
| 第11回 | 小太鼓の正しい演奏法と様々なリズムの実践練習 合奏練習及び指揮法 表現を意識し、演奏のバランスを考える 自分の演奏だけではなく、周りの楽器の演奏を聴きながらハーモニーを理解する。楽曲分析による各旋律の重要性を認識する。領域表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。絵描き歌「あひる、うちわ、おじさん、おばけ、ぞうさん、ためき、鳥コッコ、へのへのへまじ、ぼうがいつぼんあつたとき、ねこ」 | (2)②,(2)-③ |
| 第12回 | 木琴・鉄琴の正しい演奏法と実践練習 合奏の実践と指導法 打楽器と旋律楽器 / 合奏のパート分け 2歳～5歳の合奏の指導案の作成と発表。自らの演奏の経験を通して模擬保育を考察し改善点などを発見する。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、合奏の指導を考察する。動く活動において各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を示し、保育の構想に活用するように促す。 | 2-(1) (2) |
| 第13回 | 鍵盤ハーモニカの正しい使い方と導入方法 (指の使い方、息の使い方、タンキング、3つの技術の習得) 幼児の理解を踏まえ、その具体的指導方法を考える。当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。DVD等を使用し子どもの演奏を通して領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。この実践をおとて実際の保育の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。 | 2-(1) (2) |
| 第14回 | 子どもたちの音楽表現への意欲を引き出すための環境づくりと遊び 楽器との出会いから、多様な視点で楽器を捉え子どもの身の回りの環境を考えていく。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③ |
| 第15回 | 子どもたちの音楽表現への意欲を引き出すための環境づくりと遊びの実践 指導案を作成し、子どもの意欲を引き出す音楽設定を考え実践する。模擬保育の実践 | (2)-③④⑤ |
| 定期試験 | 実技試験 | |
| 第16回 | 2歳児の発達と合奏曲の編成と指導上の留意点 2歳児のためのリズム指導法とその実践 わらべ歌の合奏とオスティナート | |
| 第17回 | 3歳児の発達と合奏曲の編成と指導上の留意点 6種類の言葉のリズムを使った合奏の指導の指導と伴奏。簡単なコード伴奏による。楽しく演奏させるために 幼児一人一人の特性、発達段階を踏まえた幼児への指導方法と評価の考え方を具体的に考える。幼児が経験し、身に付けていく内容と指導上の留意点を理解。 | |
| 第18回 | 4歳児の発達と合奏曲の編成と指導上の留意点 楽器の種類と正しい演奏方法の理解と習得① / 4歳児の合奏 幼児が経験し、身に付けていく内容と指導上の留意点を理解。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想をする。実際に子どもたちが演奏する場面を視聴し具体的な対応の研究。「となりのトトロ」「星に願いを」「狼なんかこわくない」対象年齢、指揮法、楽曲分析バランスを考慮した編曲、奏法、記譜法、指導法、表現、言葉の使い方などを踏まえ、合奏曲を完成させる。 | |
| 第19回 | 5歳児の発達と合奏曲の編成と指導上の留意点 楽器の種類と正しい演奏方法の理解と習得② / 5歳児の合奏 幼児が経験し、身に付けていく内容と指導上の留意点を理解。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想をする。実際に子どもたちが演奏する場面を視聴し具体的な対応の研究。対象年齢、指揮法、楽曲分析バランスを考慮した編曲、奏法、記譜法、指導法、表現、言葉の使い方などを踏まえ、合奏曲を完成させる。 | |
| 第20回 | 合奏体験と振り返り / 楽器編成のあり方 実技テスト 指導者として具体的な指導場面を想定し、領域のねらいや内容を理解した上で、幼児が音楽体験を出来るように指導上の留意点を理解し演奏する。領域表現において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解した上で段階的な指導を理解し実践する。 | |
| 第21回 | 子どもたちの基本リズムパターンと指導法 ①身体と声で遊ぶ展開の方法を学び、音楽遊びとのつながりを考える。音楽遊び全身を使う遊び「アルプス一万尺、かなずちトントン、かまつれしゃ、ケンパであそぼう、ゆらゆらポートバスごっこ、もうじゅうがりにいこうよ、ロンドン橋」 | |
| 第22回 | 基本リズムを使った実践体験 保育の展開を考え幼稚園教育における評価の考え方を確認。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の考察。「ブルーシートの海」「動物にならきてみよう」「おまじないあそび」「季節の音ダンス」幼児の歌、ポディーパーカッション、音楽あそびなど。 | |
| 第23回 | 指導案の書き方と模擬保育 障害児・障害者との関わりと音楽遊びと歌。合奏で注意すること DVD等で、子どもたちの楽器遊びを視聴し、楽器を使った表現方法の考察 / 聞こえる音を再生しよう 合奏における幼児への指導法を考え、指導案を作成する。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本の確認と領域表現のねらい及び内容並びに全体構造の理解の確認。表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。この保育実践における子どもの動向を知り、保育構想の向上に取り組む。 | |
| 第24回 | 設定保育① 保育の準備、導入～展開～まとめ 模擬保育 「ゴムあそび」「もちつき」「打ち上げ花火」「バラの花輪」「きのこたいそう」「まねっこダンス」「おはようのうた」「すきなおやつはなあに？」など | |
| 第25回 | 設定保育② 保育の準備、導入～展開～まとめ 模擬保育 楽器を自由に楽しむ方法。「わくわく演奏法」「どんぐりのたいこ」「どんぐりの木琴」「かみなり太鼓」「鍵盤ハーモニカではち」「雨の音楽」「楽器でクッキング」 その他 レッジョエミアの保育と考え方。 | |
| 第26回 | 模擬保育の実践 (クラス全体) 童謡の作り / 作品完成 清書 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造の確認。領域表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解した作品になっているか考察。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。各々の作品を通して領域表現で幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解して作品になっているかの考察。領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用し、保育の構想に活用することができるかを考察する。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する実力を身に付ける。作品を使い、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。領域表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。 | |
| 第27回 | 模擬保育の実践 (グループ) ※模擬保育 作品完成 楽譜作成 領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用し、保育の構想に活用することができるかを考察する。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する実力を身に付ける。作品を使い、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。領域表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。 | |
| 第28回 | ごっこあそび から 劇遊びについて 劇遊びと音楽の可能性を考える。「ひとこと昔話」「4つの場面」「ごっこ遊びからお話へ」「絵からお話をつくる」 | |
| 第29回 | 劇遊びの表現方法と実践 なりきりあそび②「おおきなかぶ」「シンデレラ」絵本から音楽劇 音楽を使った、ヘアサート・パネルシアター・ミュージックパネルの可能性。創造的音楽教育の実践と指導案作成。効果音の模索。日本の童話、世界の昔話などの考察 | |
| 第30回 | 劇遊びの発表 日本の昔話と世界の昔話 舞台づくり 音楽づくり 実技テスト 総復習 領域表現音楽において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解の確認と幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性の確認。 | |
| 定期試験 | 実技試験 | |